

安倍外交の

挑戦

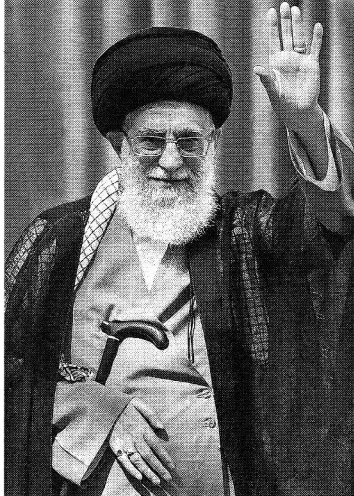


川上高司

● 3 ●

中東地政学の中心イラン

イランが、中東の地政学的な地殻変動の震源地となっている。オバマ米政権が昨年9月以来、対イラン有和路線を取ったことが引き金となった。ブレジンスキー元米大統領補佐官は著書『グラランド・チエスボード』で、「イランは中央アジア諸国の政治的多元性を支える役割を果たしている」と、イランの地政学的重要性を述べている。



国交回復を模索する米国 日本が重要な仲立ち役に

威となっている。このため、イラン（シーア派国家）との関係改善に乗り出す国も出てきた。

トルコ（スンニ派国家）は、シーア派との関係修復をアピールイランの最高指導者ハメネイ師。イスラム教シーア派の聖職者で、国政全般の決定権を持つ（AP）

一方、米国と長年の友好国であったサウジアラビアが、米国のイラン政策の転換に不満を持ち、両国関係が悪化している。さらに、シリア内戦がシーア派対スンニ派の宗派戦争となり、イスラム教スンニ派過激組織（ISIL）が勢力を伸ばし、周辺諸国の脅

し、いち早く、冷却化していたイランとの外交関係を正常化させた。パキスタンもイランとの関係改善を目指している。両国には、イランがパキスタンに天然ガス1日約210億ドルを25年間供給する、総事業費76億ドル（約7700億円）の「ピース・パイプライン」共同事業がある。

現在、シリア内戦は長期化し、ISILの勢力はイラクまで拡大し、いち早く、冷却化していたイランとの外交関係を正常化させた。パキスタンもイランとの関係改善を目指している。両国には、イランがパキスタンに天然ガス1日約210億ドルを25年間供給する、総事業費76億ドル（約7700億円）の「ピース・パイプライン」共同事業がある。

アからイラクにかけてのシーア派地域の真ん中に、厳格なスンニ派国家「イスラム国」の樹立を一方的に宣言した。イラクでは米軍撤退後、シーア派のマリキ政権がスンニ派を抑圧したため、スンニ派住民の多いアンバル地域で支持を得たISILが勢力を増している。これに対し、イランは精鋭部隊である革命防衛隊数百人を派遣し、マリキ政権を援護する。一方、イラク北部はクルド人自治

区となっており、ISILの侵攻を阻んで牙城を死守している。イラクはいま、北部のクルド人、西部のISIL、バグダッド周辺のシーア派と3分裂する危機に直面している。シリアでも、ISILとの戦闘は継続しているが、アサド大統領はイラクのISIL支配地を空爆して、マリキ首相を助けている。この空爆がイランとの協議のもとで行われたのは間違いない。また、イラクとシリアを支援するロシアも戦闘機スホーイ25をマリキ政権に供与した。イランは今後ますます、中東の地政学上の中心的なプレーヤーとして重きをなすだろう。ただ、サウジアラビアとの競合関係が不透明である。米国はイランとの国交回復を模索する一方、シリアでは反政府側への支援を継続している。

こうしたなか、長年にわたりイランと関係を温めてきた日本の果たす役割は大きい。米国とイランとの間に立ち、重要な橋渡しをするチャンスである。安倍晋三政権のチャレンジは続く。

（拓殖大学海外事情研究所長）